

概要 - 日本語

FUJITSU Software ServerView Suite

ServerView Agentless Management

概要

2022年07月版

DIN EN ISO 9001:2015 に準拠したドキュメントの作成

高い品質とお客様の使いやすさが常に確保されるように、

このマニュアルは、DIN EN ISO 9001:2015

基準の要件に準拠した品質管理システムの規定を

満たすように作成されました。

cognitas. Gesellschaft für Technik-Dokumentation mbH

www.cognitas.de/en/

著作権および商標

Copyright 1998 - 2022 FUJITSU LIMITED

All rights reserved.

お届けまでの日数は在庫状況によって異なります。技術的修正の権利を有します。

使用されているハードウェア名とソフトウェア名は、各メーカーの商標名および商標です。

目次

1 はじめに	5
1.1 ServerView Agentless Service	5
1.2 ServerView エージェントレス管理	6
2 エージェントレスモード	7
3 Agentless Service を使用したエージェントレスモード	8
4 ServerView Agentless Service を使用したエージェントレス管理	9
5 ServerView Agentless Service のコンシューマ	11
6 適切なサーバ管理の選択	12
6.1 ServerView Agents と CIM Provider での従来のサーバ管理	12
6.2 ServerView Agentless Management	12
6.3 各種モードで提供される情報（PRIMERGY システム）	13
6.3.1 iRMC Web UI	13
6.3.2 ServerView Operations Manager	15
7 ServerView Agentless Service のインストール	18
7.1 Windowsでのインストール	19
7.1.1 グラフィカルインターフェースを使用するインストール	19
7.1.2 コマンドラインインターフェースによるインストール	20
7.1.3 ServerView Agentless Service の開始と停止	21
7.1.4 ServerView Agentless Service のアンインストール	22
7.2 Linuxでのインストール	22
7.2.1 要件	22
7.2.2 ASP を使用したインストール	23
7.2.3 ドライバモニタ機能の使用に必要な設定	23
7.2.4 ServerView Agentless Service の開始と停止	24
7.2.5 ServerView Agentless Service のアンインストール	25

8 Agentless Service の設定	26
9 iRMC S4/S5/S6 での SNMP サービスの設定	27
10 システムスナップショット機能	28
10.1 Windows でのシステムスナップショットの取得	28
10.2 Linux でのシステムスナップショットの取得	28
11 イベント	30
11.1 RAID イベント	30
11.2 ハードウェアイベント	30

1 はじめに

FUJITSU Software ServerView Suite は、管理対象サーバの管理用にこれまで 2 つの選択肢を提供してきました。

- 「In-band」管理。これは、オペレーティングシステムが実行中で ServerView Agents または CIM Provider が管理対象サーバにインストールされている場合の管理です。
- 「Out-Of-Band」管理。これは、ハードウェア故障などの理由でオペレーティングシステムが実行されていない場合の管理です。Out-Of-Band 管理では、管理対象サーバへの追加のインストールが必要ありません（ServerView Agents のインストールなど）。

通信は、in-band 管理では管理対象サーバの業務 LAN ポート経由で発生し、Out-Of-Band 管理では統合された統合 Remote Management Controller (iRMC) の専用 Management LAN ポート経由で発生します。統合 LAN 接続を持つ iRMC は、自律型のシステムとしてサーバのシステムボードに配置されます。これには、独自のオペレーティングシステム、独自の Web サーバ、独自のユーザ管理、独立したアラーム管理システムが搭載されます。サーバがスタンバイモードになっていても、iRMC には電源が供給されます。

セキュリティ要件が増加しつつあることに加え、システムを軽減する必要があるため、Out-Of-Band 管理が注目を集め始めています。通信が Management LAN ネットワークのみで発生するため、業務ネットワークが軽減されます。さらに、管理へのアクセスが専用 Management LAN ポートに制限されるため、管理対象コンポーネントへの無許可アクセスがさらに制限されます。また、管理機能が iRMC に移動されたことにより、管理対象サーバのパフォーマンス使用率が軽減されます。

1.1 ServerView Agentless Service

Out-Of-Band 管理の利点を使用しますが、in-band 管理および ServerView Agents または CIM Provider で利用可能な大量のデータセットを使用するために、ServerView Suite では、管理対象サーバで実行して iRMC と通信する ServerView Agentless Service という小規模なソフトウェアプログラムを提供しています。ServerView Agentless Service（以下「Agentless Service」と呼びます）により、オペレーティングシステムの実行中に、オペレーティングシステムベースの管理情報を iRMC 経由で利用できます。

1.2 ServerView エージェントレス管理

ServerView エージェントと CIM Providerを使用せずに iRMC で管理することを「ServerView エージェントレス管理」と言います。エージェントレス管理には、次の2つの異なるモードがあります。

- ServerView Agentless Service を管理対象サーバにインストールしない Out-Of-Band 管理は、「エージェントレスモード」として知られています。
- 管理対象サーバに ServerView Agentless Service を追加インストールする out-of-band 管理は、「Agentless Service を使用するエージェントレスモード」と呼ばれます。



ServerView Agentless Service は、iRMC S4/S5/S6 を搭載した PRIMERGY および PRIMEQUEST システムにしかインストールできないことに留意してください。運用がこれらのバージョンの iRMC にある特定のファームウェア機能に大きく依存するからです。古いバージョンの iRMC を搭載したシステムはサポートされません。

2 エージェントレスモード

エージェントレスモードでは、サーバは管理対象サーバの iRMC でのみ管理されます。管理対象サーバでは、ServerView Agents や CIM Provider も、ServerView Agentless Service も実行されていません。そのため、管理対象サーバでは iRMC とオペレーティングシステム間の通信ありません。ServerView Operations Manager および Nagios Plug-in などのコンシューマは、専用 Management LAN ポートのみを経由して iRMC と通信します。業務 LAN には負荷がありません。

エージェントレスモードでの ServerView エージェントレス管理では、マザーボード、メモリモジュール、電源、特定の RAID コントローラなどの、複数のシステムコンポーネントに関する情報を提供します。それでも、監視機能は、I²C などのハードウェアインターフェースを通じて iRMC が直接アクセス可能なコンポーネントに限定されます。ただし、OS イベントログを含む PrimeCollect データなどの OS で使用可能な情報はありません。

3 Agentless Service を使用したエージェントレスモード

Agentless Service を使用したエージェントレスモードでは、サーバは管理対象サーバの iRMC でのみ管理されます。管理対象サーバでは、ServerView Agentless Service のみインストールされます。ServerView Agents や CIM Provider はインストールされません。ServerView Agentless Service と iRMC の間の通信は、HTI (High Speed Transfer Interface) 経由で発生します。SNMP は、管理対象サーバ上ではなく、iRMC 上で実行されます。

ServerView Operations Manager および Nagios Plug-in などのコンシューマは、専用 Management LAN ポートのみを経由して iRMC と通信します。データ交換は Management LAN を通じて行われるため、業務 LAN には全く負荷がありません。

マザーボード、メモリモジュール、電源、RAID などの複数のシステムコンポーネントに関する情報と同様に、Agentless Service を使用するエージェントレスモードの ServerView エージェントレス管理は、OS イベントログを含む PrimeCollect データなどの OS ベースの情報を提供します。

4 ServerView Agentless Service を使用したエージェントレス管理

ServerView Suite の従来のサーバ管理と異なり、エージェントレス管理では、業務プロセスを生産プロセスから完全に切り離します。

従来のサーバ管理では、ServerView Agents または ServerView CIM Provider を管理対象サーバにインストールする必要がありました。管理対象サーバと中央管理用サーバ（CMS）間の通信は、OS が実行中の場合は業務ネットワーク、そうでない場合は管理ネットワークで行われます。

ServerView エージェントレス管理では、ServerView Agentless Service を管理対象サーバにインストールする必要があります。

- Agentless Service は、オペレーティングシステムベースの管理情報（現時点では ServerView エージェントから提供される情報のサブセット）を収集します。
- Agentless Service は、iRMC およびその専用 Management LAN ポート経由で管理ソフトウェアと通信します。
- Agentless Service は、管理対象サーバにメモリと処理電力をほとんど必要としません。

そのため、ServerView エージェントレス管理には、従来のサーバ管理より多くの利点があります。

- システムリソースの使用率を最適化します。
- 業務ネットワークと管理ネットワークを切り離します。
- iRMC とのみ通信し、管理対象サーバへの管理ソフトウェアの接続はありません。
- データセンターセキュリティコンセプトをサポートします。
- システムが起動されて実行中であるかどうかに関係なく、管理情報を提供します。
- 保守経費が削減されます。

サーバ OS で実行中の Agentless Service と連携させると、オンラインアップデートで iRMC (eLCM : embedded Lifecycle Management) の自動アップデート機能が拡張されます。Agentless Service はドライバおよびファームウェアインベントリデータを提供しており最終的にファームウェアアップデートをインストールし、Windows システムでは、システムを起動して実行中にコンポーネントドライバも管理対象サーバにインストールします。

Agentless Service は Windows および Linux システムで使用でき、インストールが容易なうえに詳細な設定が必要ありません。

Agentless Service は PRIMERGY サーバおよび PRIMEQUEST サーバで使用できます。PRIMEQUEST サーバのエージェントレス管理コンセプトは、上記コンセプトとわずかに違いがあります。

5 ServerView Agentless Service のコンシューマ

ServerView Suite の範囲内では、以下のコンポーネントが Agentless Service でサーバ管理をサポートします。

- ServerView Operations Manager
- Nagios Plug-in
- iRMC S4/S5/S6 Web UI

ServerView Operations Manager

- 管理対象サーバに OS がインストールされていない場合でも、エージェントレスシステムを検出します。
- iRMC S4/S5/S6 の SNMP スタックを使用して主要なすべての内部サブシステムを監視します。
- エージェントレスシステムからイベントを受信します（SNMP トラップ/OS イベントログ）。

Nagios Plug-in

- iRMC を使用して PRIMERGY および PRIMEQUEST サーバを監視します。

iRMC S4/S5/S6 Web UI

- Agentless Service からのデータを表示します。

6 適切なサーバ管理の選択

どのタイプのサーバ管理をユーザが選択すると最適であるかは、下記に概要を示す、さまざまな事項によって異なります。

6.1 ServerView Agents と CIM Provider での従来のサーバ管理

ServerView Agents と CIM Provider を使用する場合、現在、ServerView Operations Manager、ServerView System Monitor および ServerView 統合モジュールを使用する管理で大部分の機能を使用できます。そのため、複雑な管理とアラートシステムが必要な場合は、従来のサーバ管理が最適です。

6.2 ServerView Agentless Management

セキュリティの向上

エージェントレス管理では、管理の目的に BMC (iRMC S4/S5/S6) のみを使用します。業務ネットワークを使用する必要はありません。

管理者と業務ユーザを厳密に区別することができます。

Agentless Service は、(LAN ポート、ソケット経由などで) OS に接続しません。

柔軟性の向上

OS がインストールされていない場合や、シャットダウン中でも、管理を行うことができます。

パフォーマンスの向上

OS でのリソースが不要です。または少なくて済みます (エージェントレスモード / Agentless Service を使用したエージェントレスモード)。

効率性の向上

Agentless Service のインストールと設定が容易で、保守作業を最小限に抑えることができます。

保守作業が不要です（エージェントレスモード）。

6.3 各種モードで提供される情報（PRIMERGY システム）

6.3.1 iRMC Web UI

情報	SNMP エージェントで使用可能（Windows、Linux）	Agentless Service で使用可能（Windows、Linux）	エージェントレスモードで使用可能（iRMC のみ）
ステータス	全体ステータス 電源ステータス ステータスエラー LED ステータス CSS LED センサ 温度 ファン メモリ CPU HDD	全体ステータス 電源ステータス ステータスエラー LED ステータス CSS LED センサ 温度 ファン メモリ CPU HDD	全体ステータス 電源ステータス ステータスエラー LED ステータス CSS LED センサ 温度 ファン メモリ CPU HDD
PDA	メモリ バッテリー BIOS 外部記憶装置 ファン	メモリ バッテリー BIOS 外部記憶装置 ファン	メモリ バッテリー BIOS 外部記憶装置 ファン
RAID を含む ストレージ	「ServerView Suite products supported version for storage monitoring and management functions」を参照してください。このドキュメントは https://support.ts.fujitsu.com からダウンロードできます。		
ネットワーク	NIC、CNA、FC コントローラのリンクアップ/リンクダウン	NIC、CNA、FC コントローラ	NIC、CNA、FC コントローラ

6.3 各種モードで提供される情報 (PRIMERGY システム)

情報	SNMP エージェントで使用可能 (Windows、Linux)	Agentless Service で使用可能 (Windows、Linux)	エージェントレスモードで使用可能 (iRMC のみ)
OS 情報	システム名 OS バージョン/ビルド IP アドレス システムの場所 システムの連絡先 エージェントバージョン システムアップタイム	システム名 OS バージョン/ビルド IP アドレス エージェントバージョン システムアップタイム	利用可能な OS 情報なし
パフォーマンスデータ	利用不可能	利用不可能	利用不可能
イベント	IPMI SEL 内部エラーログ	IPMI SEL 内部エラーログ	IPMI SEL 内部エラーログ
電源制御	消費電力 消費電力監視 シャットダウンおよびリセット 電源投入/切断	消費電力 消費電力監視 シャットダウンおよびリセット 電源投入/切断	消費電力 消費電力監視 電源投入/切断
アップデート管理	BIOS ファームウェア エージェント ドライバ	BIOS ファームウェア エージェント ドライバ	BIOS ファームウェア
診断	OS データを含むシステムレポート	OS データを含むシステムレポート	システムレポート
診断情報収集	SD カードで使用可能、OS イベントログを含む (eLCM)	SD カードで使用可能、OS イベントログを含む (eLCM)	利用不可能

6.3.2 ServerView Operations Manager

情報	SNMP エージェントで使用可能 (Windows、Linux)	Agentless Service で使用可能 (Windows、Linux)	エージェントレスモードで使用可能 (iRMC のみ)
ステータス	全体ステータス 電源ステータス ステータスエラー LED ステータス CSS LED センサ 温度 ファン メモリ CPU HDD	全体ステータス 電源ステータス ステータスエラー LED ステータス CSS LED センサ 温度 ファン メモリ CPU HDD	全体ステータス 電源ステータス ステータスエラー LED ステータス CSS LED センサ 温度 ファン メモリ CPU HDD
PDA	メモリ バッテリー BIOS 外部記憶装置 ファン CPU (SVOM UI)	メモリ バッテリー BIOS 外部記憶装置 ファン	メモリ バッテリー BIOS 外部記憶装置 ファン
RAID を含むストレージ	非 RAID コントローラに接続される HDD RAID コントローラに接続される HDD SW-RAID に接続される HDD JX40 のサポート	利用不可能	利用不可能

6.3 各種モードで提供される情報（PRIMERGY システム）

情報	SNMP エージェントで使用可能（Windows、Linux）	Agentless Service で使用可能（Windows、Linux）	エージェントレスモードで使用可能（iRMCのみ）
ネットワーク	NIC、CNA、FC コントローラのリンクアップ/リンクダウン 情報（トラップなし）	利用不可能	利用不可能
OS 情報	利用可能（OS.MIB） OS 名 OS バージョン システム名 IP アドレス	利用可能（OS.MIB） OS 名 OS バージョン システム名 IP アドレス	利用不可能
パフォーマンスデータ	CPU メモリ NIC HD 負荷	利用不可能	利用不可能
イベント	IPMI SEL 内部エラーログ OS イベントログ SNMP トラップ	IPMI SEL	利用不可能
電源制御	消費電力 消費電力監視 シャットダウンおよびリセット 電源投入/切断	シャットダウンおよびリセット 電源投入/切断	電源投入/切断
アップデート管理	BIOS ファームウェア エージェント ドライバ	利用不可能	利用不可能

6.3 各種モードで提供される情報 (PRIMERGY システム)

情報	SNMP エージェントで使用可能 (Windows、Linux)	Agentless Service で使用可能 (Windows、Linux)	エージェントレスモードで使用可能 (iRMC のみ)
診断	PCSysScan (システムレポート)	利用不可能	利用不可能
診断情報収集	利用可能	利用不可能	利用不可能

7 ServerView Agentless Service のインストール

ServerView Agentless Service では次のオペレーティングシステムをサポートしています。

- Windows
 - Microsoft Windows Server 2012
 - Microsoft Windows Server 2012 R2
 - Microsoft Windows Server 2016
 - Microsoft Windows Server 2019
 - Microsoft Windows Server 2022
- Linux
 - Red Hat Enterprise Linux 7
 - Red Hat Enterprise Linux 8
 - SUSE Linux Enterprise Server 12
 - SUSE Linux Enterprise Server 15
 - Oracle Linux 7 Update 8



ServerView Agentless Service は、iRMC S4/S5/S6 を搭載した PRIMERGY および PRIMEQUEST システムにしか、インストールできません。運用がこれらのバージョンの iRMC にある特定のファームウェア機能に大きく依存するからです。

ServerView Agents/CIM Provider および ServerView Agentless Service を同時にインストールすることはできません。ServerView Agents または CIM Provider がインストールされている場合、ServerView Agentless Service のインストールは中断されます。



ServerView Agentless Service のインストール中に、ServerView RAID コンポーネントが自動的にインストールされます。

ServerView RAID コンポーネントがインストールされている場合、RAID イベントに関連するメッセージは OS イベントログに記録されます。詳細は、このマニュアルの「イベント」の章を参照してください。

7.1 Windowsでのインストール

ServerView Agentless Service は、グラフィカルインターフェースまたはコマンドラインインターフェースを使用してインストールできます。コマンドラインインターフェースの場合は、ServerView Agentless Service をサイレントインストールすることもできます。

必要なソフトウェアは ServerView Suite DVD 2 に格納されています。PRIMERGY ServerView Suite のすべてのソフトウェアは、「**ServerView Software Products**」で確認できます。この製品の ServerView Agentless Service ソフトウェアパッケージ SVAS_Win_x64.exe を見つけるには、「**ServerView**」 - 「**Agents and Providers**」を選択します。

7.1.1 グラフィカルインターフェースを使用するインストール



ServerView Agentless Service のサイレントインストールについては、[20 ページの コマンドラインインターフェースによるインストール](#)を参照してください。

ServerView Suite DVD 2 を使用して ServerView Agentless Service をインストールします。

1. ServerView Suite DVD 2 を DVD-ROM ドライブに挿入します。DVD が自動的に起動しない場合は、DVD のルートディレクトリにある **start.html** ファイルをクリックします。
2. 「**ServerView Software Products**」 オプションを選択します。
3. 「**ServerView**」 - 「**Agents and Providers**」を選択します。
4. **ServerView Agentless Service** で **SVAS_Win_x64.exe** を起動します。
インストールウィザードが開きます。
5. ライセンス契約（Fujitsu Technology Solutions およびサードパーティ）に同意します。
6. 「**次へ**」をクリックします。「**インストール先フォルダ**」ダイアログボックスが開きます。

ServerView Agentless Service パッケージをインストールするインストール先フォルダを指定します。デフォルト設定を変更するには「**変更**」を使用します。

デフォルトでは、ソフトウェアは次のディレクトリに保存されています。

C:¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥SVAS

7. 「**次へ**」をクリックします。

8. 「インストール」をクリックしてインストールを開始します。インストールが開始され、インストールが正常終了すると通知されます。
9. 「終了」をクリックしてインストールを完了します。

7.1.2 コマンドラインインターフェースによるインストール

コマンドラインのコマンドを使って ServerView Agentless Service をインストールできます。ServerView Agentless Service はサイレントインストールすることもできます。サイレントインストールを利用して、Microsoft System Management Server (SMS) などのソフトウェア共有システムはソフトウェアを自動的に共有できます。

ServerView Agentless Service セットアップは、Microsoft Windows インストーラ技術に基づいています。セットアップデータはインストーラデータベース SVAS_x64.msi にあります。

Setup.exeのコマンド構文

コマンドラインレベルに切り替えて、インストールディレクトリの最上位レベルで setup コマンドを以下のように入力します。

```
Setup.exe [/x] | [[/a] [/s] [/V]]
```

オプションには、以下の意味があります。

/x
(アンインストールモード)
セットアップは製品をアンインストールします。

/a
(管理モード)
セットアップは Administrator Mode で実行されます。このモードではすべてのデータファイルが抽出され、ディレクトリに配置されます。レジストリエントリや接続は作成されません。

/s
(サイレントモード)
画面上のすべてのメッセージを抑制します。インストールは、バックグラウンドで完了します。

/V
(Microsoft installer オプション)
Microsoft Installer (MSIEXEC.EXE) に引数を直接引き渡すことができます。

Microsoft installer のプロパティ

プロパティを設定することで、インストールに影響を与えることができます。プロパティの名前は、常に大文字で書かれます。値には、大文字と小文字の区別がありません。

INSTALLDIR

標準のインストールディレクトリを初期化します。

有効なパス名。例：

INSTALLDIR=C:\Programs\Fujitsu\ServerView Suite\SVAS

標準：システムフォルダー

REBOOT

インストール後のシステム再起動時に動作に影響を与えます。たとえばコンポーネントが再起動後にのみ変更できる場合に、このオプションは自動インストール後にシステムが再起動しないようにします。次の値が可能です。

F システムは常に再起動します。

R システムは再起動しません。

例

```
Setup.exe /s/V"/qn INSTALLDIR=C:\Fujitsu\SVAS REBOOT=F"
```

カスタムディレクトリへの自動サイレントインストールの後、リブートされます。

7.1.3 ServerView Agentless Service の開始と停止

Agentless Service を Windows にインストールすると、システムを開始するたびに ServerView Agentless Service と ServerView RAID Manager というサービスが自動的に開始されるようになります。診断のためには、サービスを明示的に停止して再起動すると有効です。

7.1.4 ServerView Agentless Service のアンインストール



ServerView Agentless Service をアンインストールする前に、ソフトウェアウォッチドッグ、BOOT ウォッチドッグ、電源 ON/OFF 設定を無効にしてください。

ServerView Agentless Service をアンインストールするには、次の手順に従います。

1. 管理者として、または管理者権限を持つユーザとしてログインします。
2. Windows の「スタート」ページにアクセスします。
3. 「コントロールパネル」を起動します。
4. 「プログラム」セクションで「プログラムのアンインストール」をクリックします。
5. 「Fujitsu ServerView Agentless Service x64」を選択し、「アンインストール」をクリックします。

ServerView Agentless Service がアンインストールされます。

7.2 Linuxでのインストール

Linux オペレーティングシステムでは、ASP (Autonomous Support Package) を使用して Agentless Service をインストールします。該当するソフトウェアは ServerView Suite DVD 2 に格納されています。

7.2.1 要件

ServerView Agentless Service をインストールする前に、いくつかの要件を満たしておく必要があります。

ServerView Agentless Service には、以下のソフトウェアパッケージが必要です。

SLES 12/SLES 15

- libstdc++6
- libcurl4
- libopenssl1_0_0
- cyrus-sasl
- pciutils (Intel® VROC)

RHEL 7/OL 7

- libstdc++
- libcurl
- openssl
- cyrus-sasl
- pciutils (Intel® VROC)

RHEL 8

- libstdc++
- libcurl
- openssl
- compat-openssl10
- cyrus-sasl
- pciutils (Intel® VROC)

7.2.2 ASP を使用したインストール

Linux オペレーティングシステムでは、ASP (Autonomous Support Package) を使用して Agentless Service をインストールします。

ソフトウェアは ServerView Suite DVD 2 に格納されています。PRIMERGY ServerView Suite のすべてのソフトウェアは、「**ServerView Software Products**」で確認できます。この製品の Linux 用 ServerView Agentless Service ソフトウェアパッケージを見つけるには、「**ServerView**」 - 「**Agents and Providers**」を選択します。

ServerView Agentless Service で自己解凍型の各 `sv_Agentless_Service_Lx_<バージョン>.scexe` を使用して、Linux 用 ASP を起動します。

ASP のインストール方法については、『Local System Update for PRIMERGY Servers』取扱説明書で説明しています。

7.2.3 ドライバモニタ機能の使用に必要な設定

SLES のドライバモニタ機能

SLES におけるドライバモニタ機能では、以下の手順を実行します。

1. 次の行をファイル `/etc/rsyslog.conf` に挿入します。

```
*.info;mail.none;news.none;authpriv.none;cron.none  
|/dev/HWLog/syslog_fifo
```
2. YaST を起動して、「AppArmor Configuration」 - 「Manage Existing Profiles」の順に選択します。
3. アクティブな syslog デーモンの名前 (`/sbin/syslogd`) を選択して、「Edit」をクリックします。
4. 「Enter」フィールドに `/dev/HWLog/syslog_fifo` と入力するか、「Filename」フィールドを変更します。
5. Permissions で Read and Write オプションを有効にします。
6. この入力を保存します。
7. 次により AppArmor を再起動します。

```
systemctl restart apparmor
```
8. 次により syslog サービスを再起動します。

```
systemctl restart rsyslog
```

RHEL のドライバモニタ機能

RHEL におけるドライバモニタ機能では、以下のことが適用されます。

インストール時に次の行が syslog 設定ファイルに挿入されます。

```
*.info;mail.none;news.none;authpriv.none;cron.none  
|/opt/fujitsu/ServerViewSuite/HWLog/path/syslog_fifo
```

syslog デーモンが再起動されます。

アンインストール時にこのエントリは削除され、syslog デーモンが再起動されます。

7.2.4 ServerView Agentless Service の開始と停止

Agentless Service を Linux にインストールすると、システムを開始するたびに Agentless Service と RAID Manager Service が自動的に開始されるようになります。診断のためには、サービスを明示的に停止して再起動すると有効です。

ServerView Agentless Service の開始

次のコマンドを使用して Agentless Service を開始します。

```
systemctl start svas
```

Agentless Service の停止

以下のコマンドで Agentless Service を停止します。


```
systemctl stop svas
```

RAID Manager Service の起動

次のコマンドを使用して RAID Manager Service を開始します。

```
systemctl start svraid
```

RAID Manager Service の停止

以下のコマンドで RAID Manager Service を停止します。

```
systemctl stop svraid
```

7.2.5 ServerView Agentless Service のアンインストール



ServerView Agentless Service をアンインストールする前に、ソフトウェアウォッチドッグ、BOOT ウォッチドッグ、電源 ON/OFF 設定を無効にしてください。

ServerView Agentless Service をアンインストールするには、以下のコマンドを入力します。

```
rpm -e srvmagt-svas
```

```
rpm -e SVAS_SVRAID
```

ServerView Agentless Service がアンインストールされます。

8 Agentless Service の設定

Agentless Service は 2 時間ごとにインベントリスキャンを実行するので、システムに高い負荷がかかります。システムから高負荷を除去するために、この間隔を変更できます。

/etc/srvmagt/config ファイルを変更して、インベントリスキャンの目的の値を設定します。

```
InventoryRescan=<value>
```

サーバのインベントリデータを更新する時間（分単位）を <value> に指定します。サポートされる値は、0 と 120~34560 です。値 0 の場合、更新は無効にされます。1 ~ 120 の値は、120 に設定されます。34560 を超える値は 0 に設定されます。デフォルト値は 120 です。



config ファイルへの変更は、Agentless Service を再起動しないと反映されません。このためには、サーバを再起動するか、次のコマンドをシステム管理者として実行します。

```
systemctl restart svraid  
systemctl restart svas
```

9 iRMC S4/S5/S6 での SNMP サービスの設定

iRMC S4/S5/S6 で SNMP サービスを設定する必要があります。この SNMP サービスは、以下の SNMP MIB での v1 GET 要求をサポートします。

- SNMP STATUS.MIB
- SNMP OS.MIB
- SNMP SC2.MIB

SNMP サービスが有効な場合、これらの MIB によって提供される情報を SNMP マネージャを実行中のシステムで使用できます。

iRMC S4 では、SNMP サービスを有効にしてコミュニティ名を指定するには、iRMC S4 Web UI の「ネットワーク設定」 - 「SNMP 一般構成」ページを使用します（『iRMC S4 Web インターフェース』取扱説明書を参照）。

iRMC S5 では、SNMP サービスを有効にしてコミュニティ名を指定するには、「サービス」ページの「Simple Network Management Protocol」グループを使用します（『iRMC S5 Web インターフェース』取扱説明書を参照）。

iRMC S6 では、SNMP サービスを有効にしてコミュニティ名を指定するには、「サービス」ページの「Simple Network Management Protocol」グループを使用します（『iRMC S6 Web インターフェース』取扱説明書を参照）。



現在、コミュニティでは「読み取り専用」権限のみサポートされています。

10 システムスナップショット機能

ServerView Agentless Service は、BMC のない PRIMERGY TX1310 M5 システム向けにシステムスナップショット機能をサポートしています。

Agentless Service をインストールしたエージェントレスモードでは、サーバは管理対象サーバの iRMC でのみ管理されます。ただし、BMC のない PRIMERGY TX1310 M5 システムには iRMC は搭載されていません。システムスナップショット機能により、BMC のない PRIMERGY TX1310 M5 システムでサーバ情報をチェックできます。

システムスナップショットコマンドを実行すると、ServerView Agentless Service はデバイスの状態を HTML ファイルとして保存するので、ユーザーは提供されたファイルを任意の Web ブラウザで開いて、デバイスのステータスを目で見て確認できます。

システムスナップショット機能からは、以下の情報が提供されます。

- システム情報
- システムの正常性
- SMBIOS イベントログの内容

10.1 Windows でのシステムスナップショットの取得

Windows で BMC のない PRIMERGY TX1310 M5 のシステムスナップショットを取得するには、ServerView Agentless Service のインストールディレクトリにある Diagnostics Tools から SystemSnapshot.exe を起動します。

デフォルトでは、SystemSnapshot.exe は次のディレクトリにインストールされます。

C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\SVAS\Diagnostics Tools

現在のディレクトリに HTML ファイルが生成されます。

10.2 Linux でのシステムスナップショットの取得

Linux で BMC のない PRIMERGY TX1310 M5 のシステムスナップショットを取得するには、次のコマンドを実行します。

SystemSnapshot

現在のディレクトリに HTML ファイルが生成されます。

11 イベント

11.1 RAID イベント

ServerView RAID コンポーネントでイベントが検出されると、OS イベントログにイベントが報告されます。

ServerView Agentless Service では次のオペレーティングシステムをサポートしています。

Windows

イベントはアプリケーションログに記録され、イベントのソース名は ServerView RAID です。

Linux

イベントは syslog に記録され、イベントのソース名は amDaemon です。

11.2 ハードウェアイベント

ハードウェアイベントが発生すると、iRMC で確認できます。

OS イベントログへのハードウェアイベントのログ機能は、デフォルトで無効になっています。ログ機能は、EM_OSLOGEVENT.ini ファイルを編集して有効にすることができます。

EM_OSLOGEVENT.ini ファイルの設定詳細を、以下の表に示します。

設定フィールド	可能な値	デフォルト	説明
[FileVersion]			
FileName	EM_OSLOGEVENT.ini	N/A	内部設定ファイル識別子。 編集しないでください。
Version nr.	x.y.z で意味を表わすバージョン管理用の文字列。	N/A	内部バージョン管理用のタグ。 編集しないでください。
[General]			

設定フィールド	可能な値	デフォルト	説明
有効にする	0 - ログ記録は無効 1 - ログ記録は有効	0	OS ログ機能のマスタースイッチ。
LogError	0 - エラーログ記録は無効 1 - エラーログ記録は有効	1	サーバーエラーログ記録のトグル。
LogMinor	0 - 軽度のイベントログは無効 1 - 軽度のイベントログは有効	0	軽度のイベントログのトグル。
LogInfo	0 - 情報イベントログは無効 1 - 情報イベントログは有効	0	情報イベントログのトグル。

Windows

EM_OSLOGEVENT.ini ファイルは、次のディレクトリにあります。

C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\SVAS\Server Control
イベントはアプリケーションログに記録され、イベントのソース名は ServerView Agentless Service です。

Linux

EM_OSLOGEVENT.ini ファイルは、次のディレクトリにあります。

/etc/srvmagt

イベントは syslog に記録され、イベントのソース名は Agentless です。